アカウンティングコンペティション2024

商・金ゼミと経営・岩田ゼミが入賞

2年連続最優秀賞 金ゼミ

会計学を学ぶ大学生による研究発表大会「アカウンティングコンペティション2024」が12月15日に都内で開かれ、商学部・金鐘勲ゼミと経営学部・岩田弘尚ゼミが入賞した。

アカコンは、実践的研究と学術的研究の2分野、遠隔と対面の2方式、計4区分で行われる。今年度は、全国26大学36ゼミから84チームが参加した。

入賞した金ゼミの2チーム

実践的研究分野（遠隔方式）で最優秀賞に輝いた金ゼミチームA（金子拓未さん、儀崎琴美さん、佐野友香さん、沼田星来さん＝全員4年次）は、日本企業を対象に、従業員への利益還元（労働分配率）が企業価値に与える影響を探った。労働分配率を高めることが中長期的には企業価値向上につながることを、統計分析とケーススタディーで明らかにした。金ゼミが最優秀賞を受賞したのは2年連続。4人は、「意見をぶつけ合いながら、チーム一丸となって取り組んだ。そんな私たちの研究が評価され、先輩に続いて最優秀賞を取れたことをうれしく思う」と喜んだ。

金ゼミチームB（椎名悠人さん、市川友梨さん、瀬戸愛喜さん＝全員4年次）は、同分野で優秀賞を受賞。ステークホルダー資本主義における企業価値の数値化を試みた。

学術的研究分野（対面方式）では岩田ゼミの統合報告チーム（松本潤佳さん、杉野響さん、佐藤妃音さん、山口梨乃さん＝全員3年次）が優秀賞を獲得した。4人は、非営利組織において統合報告書の導入が進んでいない現状に着目。丹念なインタビューやデータ分析を通じて、その要因を明らかにした。

岩田ゼミ統合報告チーム

商・奥瀬ゼミが東武鉄道と協力 アプリのプロモーションを提案

プロモーションを提案するゼミ生

商学部・奥瀬喜之ゼミは「商品企画とマーケティングおよび消費者行動に関する調査・研究」をテーマに活動している。

3年次生は今年度、東武鉄道（墨田区）と協力し、同社の携帯アプリ「TOBU POINTアプリ」のプロモーションに取り組んだ。ゼミ生8人が2組に分かれ、認知度アップやダウンロード数の増加、実際に活用してもらうためのプロモーションについて提案した。

ゼミ生はTOBU POINTの強みや弱みなどを分析したうえで▽ポイントが利用できる系列ホテルの動画をSNSに投稿し集客化を図る▽キャラクター「トブタン」の魅力を生かした車内広告やグッズ展開――などを提案した。

ゼミ生のうち日常的に東武鉄道を利用するのは1人だけで、ほぼゼロからのスタートだったが、詳細な分析や調査を行い、流行を取り入れた大学生目線で提案することができた。

11月27日、東武鉄道本社で最終発表会を実施。今後は、同社で実現可能性を検討する。

入賞者と佐々木学長（前列左から3番目）ら

SDGsチャレンジプログラム

国コミュ

木村チームが学長賞

「専修大学SDGsチャレンジプログラム2024」の表彰式が12月14日、生田キャンパスで開かれた。書類審査とプレゼン審査の結果、国際コミュニケーション学部3年次の木村菜月さん、吉田みりさん、岩井日向子さんが提案した「食べて止める気候変動――世界のサラダ――」が学長賞を受賞した。

本プログラムは、学内におけるSDGsへの関心を高めることなどを目的に毎年開催している。今年度は「気候変動対策」をテーマに、他者と協働して取り組むアクションプランを募集。本学の付属高校や教育交流提携校を含む全39チームが参加し、5チームが入賞した。高校生チームの入賞は昨年度に続き2回目。

学長賞の木村さんは表彰式で、「メンバー全員が食に関するアルバイトをしており、その経験から今回のプランは生まれた。小さなアクションが、気候変動という大きな問題の解決につながることを多くの人に知ってもらいたい」と受賞の言葉を述べた。

佐々木重人学長は入賞チームについて、「自分たちのアイデアがより多くの人に受け入れられるように、客観的な検証を行い、プランを固めていた」と評価し、「このコンテストで得た成功体験を自信にして、より大きな成功につなげてほしい」とエールを送った。

学長賞	
国際コミュニケーション学部・木村チーム	食べて止める気候変動―世界のサラダー
育友会長賞	
浦和学院高校チーム	Recycle Plastics And Save Mother Earth
校友会長賞	
商学部・池田チーム	地域のフリー本棚
グッド・SDGs・アクションプラン賞	
商学部・松尾チーム	CO2を買うのはやめよう！チェンジマイボトル！
国際コミュニケーション学部・小菅チーム	RePET ～地球を守るあなたの一歩～

表彰式で賞状を受け取る木村チーム

座位バレーボール日本代表の練習に参加した

教養テーマゼミ「球技系スポーツのパフォーマンス分析」

Sitting Volleyball 男子日本代表の練習に参加

教養テーマゼミ「球技系スポーツのパフォーマンス分析」（指導＝吉田清司法学部教授）は、12月7日、ナショナルトレーニングセンター（東京都北区）を訪問し、Sitting Volleyball（座位バレーボール）男子日本代表チームの練習に参加した。

球技系スポーツの理解・研究をテーマにしている同ゼミ。今回は、座位バレーボールの基礎を学び、実際に参加することで、障がいの有無に関係なく楽しめる「イコールスポーツ」への理解を深めることを目的とした。

ゼミからは学生6人が参加。2028年ロサンゼルスパラリンピックへの出場とメダル獲得を目指している日本代表選手とともに、試合形式の練習を行った。

本学バレーボール部所属の藤原龍之介さん（文4）は「臀部を付けたままでプレーするのは、容易ではなかった。トッププレーヤーの方々と真剣に、かつ楽しんでプレーして、今までバレーボールを続け技術を磨いてきてよかったと再確認することができた」と語った。